

平成 25 年度

自動車・オートバイ委員会活動報告書

平成 26 年 5 月



公益社団法人 日本防犯設備協会

自動車・オートバイ委員会

はじめに

公益社団法人 日本防犯設備協会「自動車・オートバイ委員会」は昭和 63 年度の「自動車盗難防止システム調査委員会」、平成元年度の「新自動車盗難防止システム調査委員会」、平成 6 年度の「自動車・オートバイ盗難防止技術に関する調査研究委員会」の各活動を前身とし、翌平成 7 年 11 月に常設委員会となり、車両盗難防止のため長年にわたり盗難の調査・研究及び対策案の検討、提案を実施して来ました。

また、平成 13 年に「自動車盗難等防止に関する官民合同プロジェクトチーム」（以下「官民合同 P T」）が発足し、翌年「自動車盗難等防止行動計画」が策定されて以来当委員会も官民合同 P T に参画し、自動車盗難等防止行動計画の見直し及び新たなる提案をして来ました。

自動車盗難は、平成 15 年の 64,223 件をピークに減少に転じ、以降、8 年ぶりに前年比で 1,153 件 (4.8%) 増加した平成 23 年を除き減少傾向にあり、平成 24 年は 21,070 件で前年比 3,858 件 (15.5%) の減少となっています。平成 25 年では、21,595 件で前年比 525 件 (2.5%) 増加しており、今後も注意深く状況の推移を見つめていく必要があります。

オートバイ盗難は、平成 12 年の 253,433 件をピークに減少に転じ、平成 13 年以降、9 年ぶりに前年比で 1,747 件 (2.2%) 増加した平成 21 年を除き減少傾向にあり、平成 25 年も 51,588 件で前年比 7,881 件 (13.3%) の減少傾向が続いています。今後も注意深く状況の推移を見つめていく必要があります。

また本年度は、千葉県警察本部、愛知県警察本部へ出向き最近の盗難状況のヒアリング調査を行いました。

以上の調査・研究をもとに本年度の活動成果をまとめました。

調査・研究あたっては千葉県警察本部および、愛知県警察本部の方々には多忙のなか多くの時間を割いてご協力を頂きました。

また、一般社団法人 日本損害保険協会の方には、盗難に関する各種データ提供などのご協力を頂きました。

ここにお世話になりました関係各位に心から厚く御礼申し上げます。

また、数々の貴重なご意見ご助言を頂きました特別委員の一般社団法人 日本自動車工業会の方々、精力的な調査・研究と本報告書のまとめに参画して頂いた委員並びに当協会事務局のご協力に対して深く感謝申し上げます。

平成 26 年 5 月

公益社団法人 日本防犯設備協会

自動車・オートバイ委員会

委員長 西本 昇

副委員長 吉田 裕康

目 次

はじめに

目次

自動車・オートバイ委員会名簿

1. 自動車・オートバイの盗難状況推移	1
2. 取り巻く環境	4
3. 活動計画	5
4. 自動車	6
4. 1 活動成果	6
4. 2 今後の課題	8
5. オートバイ	8
5. 1 活動成果	8
5. 2 対策の提案	10
5. 3 今後の課題	10
6. 盗難防止装置（アフターマーケット市場）	11
6. 1 盗難防止装置の出荷動向	11
6. 2 自動車盗難の現状	11
6. 3 盗難防止装置の種類	13
6. 4 自動車盗難防止対策	16
7. その他の活動	18
7. 1 官民合同 PT 等	18

おわりに

(参考資料)

1. 日本損害保険協会「第 15 回 自動車盗難事故実態調査結果」
2. 自動車のイモビライザ装備車数年別推移
3. 千葉県、愛知県での自動車盗難発生状況比較
4. 平成 25 年の広島県自動車・オートバイ盗難状況調査

自動車・オートバイ委員会 委員名簿(敬称略)

構成	氏名	会社名	所属
委員長	西本 昇	(株)ユーシン	開発本部 開発四部
副委員長	吉田 裕康	加藤電機(株)	取締役
委員	飯高 敏治	(株)アルファ	自動車部品事業部 設計部 設計管理課
委員	大橋 勝義	朝日電装(株)	技術部 製品開発課
委員	由比 一郎	(株)ホンダロック	開発本部 製品開発部 設計 BL
委員	白水 利治	(株)東海理化	セキュリティ事業部 セキュリティ技術部 第3 設計室
委員	松尾たけし	(株)目黒ロックサービス	代表取締役社長
特別委員	雨海 正勝	いすゞ自動車(株)	電装・制御開発部 電装設計第8 G
特別委員	三村 雅彦	(一社)日本損害保険協会	損害サービス業務部企画グループ 兼自動車盗難対策室
特別委員	中田 典明	(株)本田技術研究所	二輪R &Dセンター第1 開発室
事務局	友廣 一成	(公社)日本防犯設備協会	自動車オートバイ委員会事務局

1. 自動車・オートバイの盗難状況推移（警察庁データによる）

自動車及びオートバイの過去 10 年間の盗難認知件数の推移は表 1 の通りである。

自動車盗は、平成 15 年の 64,223 件をピークに平成 22 年の 23,775 件まで毎年減少した。

平成 23 年は 9 年ぶりに僅かながら増加に転じていたが、平成 24 年は再び減少に転じている。

平成 25 年の自動車盗の認知件数は、21,595 件で対前年比 525 件、2.5% の増加となっている。

またキーなし率も 76.1% で 5.5% 増加している。

認知件数がピーク時の 3 分の 1 程で推移しているおもな要因としては、以下の対応が効果を挙げてきたと考えられる。

- ①イモビライザ装着車が大幅に増えたこと。（平成 13 年：総車種数 200 に対して 28 車種、装着率 14.0% ⇒ 平成 24 年：総車種数 193 に対して 170 車種、装着率 88.1%）
- ②平成 17 年 7 月に、道路運送車両法および関税法基本通達が改正され、中古自動車の不正輸出対策が強化されたこと。
- ③当協会も参画している官民合同 P T などによる、官民が連携しての自動車盗の実態調査や「車から離れるときは必ずキーを抜き、ドアロックすること」の必要性をキャンペーンなどを通じて訴えた自動車オーナーの防犯意識向上啓蒙活動。

オートバイ盗は、平成 12 年の 253,433 件をピークに平成 13 年以降、平成 17 年まで毎年前年比 20% 前後の大幅な減少率で推移した。平成 18 年から減少率は鈍化傾向となり、平成 21 年は 9 年ぶりに僅かながら増加に転じたが、その後平成 22 年は 10.5% の減少、平成 23 年は 7.8% の減少となり平成 24 年も減少しており、減少傾向が続いている。

平成 25 年のオートバイ盗の認知件数は、51,588 件で、平成 24 年に比べ 7,881 件、13.3% の減少となった。

これは、シャッターキーやフリーリング、イモビライザ等の搭載など、ハード面での対策がさらに普及してきたこと、および自動車と同様に水際でのチェック体制の強化などが効果を挙げてきたと考えられる。

表1. 自動車盜難の過去10年間における認知件数の推移

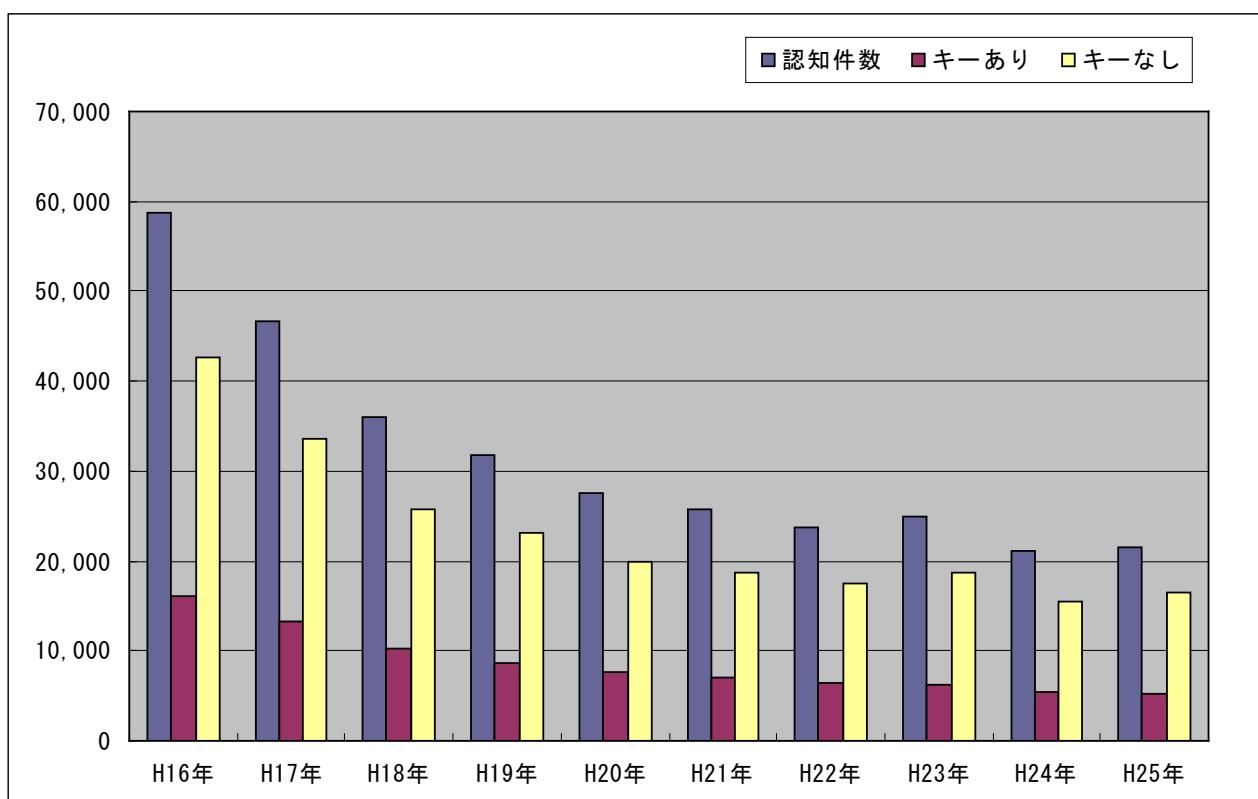
【自動車の盜難認知件数推移表】

被害率(%) = 認知件数／保有台数

年	認知件数	自動車盜						
		キーあり	(%)	キーなし	(%)	保有台数	被害率(%)	検挙率(%)
平成16年('04)	58,737	15,999	27.2	42,738	72.8	74,797,550	0.08	23.4
平成17年('05)	46,728	13,186	28.2	33,542	71.8	75,837,361	0.06	31.9
平成18年('06)	36,058	10,355	28.7	25,703	71.3	76,013,747	0.05	36.9
平成19年('07)	31,792	8,696	27.4	23,096	72.6	75,872,820	0.04	42.5
平成20年('08)	27,515	7,628	27.7	19,887	72.3	75,867,060	0.04	45.7
平成21年('09)	25,815	7,038	27.3	18,777	73.7	75,479,994	0.03	37.0
平成22年('10)	23,775	6,355	26.7	17,420	73.3	75,514,710	0.03	35.5
平成23年('11)	24,928	6,295	25.1	18,633	74.9	75,666,987	0.03	33.6
平成24年('12)	21,070	5,486	26.0	15,584	74.0	76,281,368	0.03	35.9
平成25年('13)	21,595	5,158	23.9	16,437	76.1	76,776,278	0.03	36.4

(国土交通省ホームページ／警察庁ホームページ 統計より)

【自動車の盜難認知件数推移グラフ】



(国土交通省ホームページ／警察庁ホームページ 統計より)

表2. オートバイ盗難の過去10年間における認知件数の推移

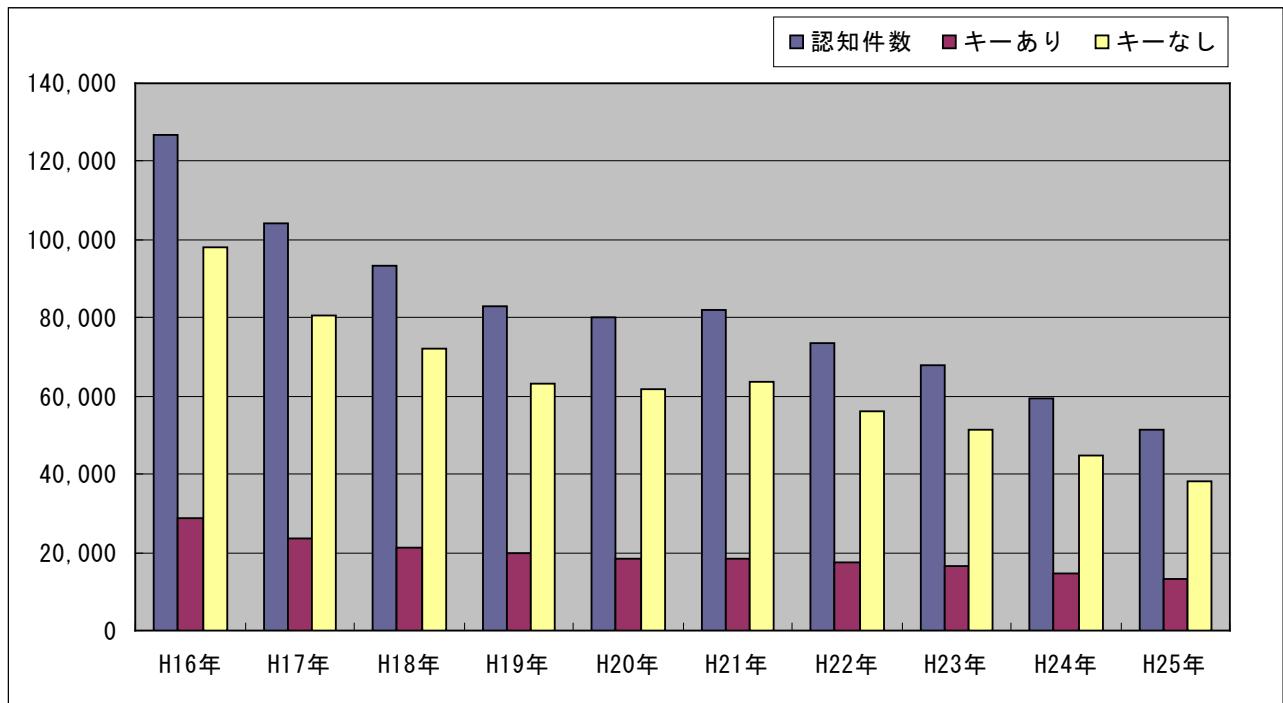
【オートバイの盗難認知件数推移表】

被害率(%) = 認知件数／保有台数

年	オートバイ 盗							被害率 (%)	検挙率 (%)
	認知件数	キーあり	(%)	キーなし	(%)	保有台数			
平成16年('04)	126,717	28,574	22.5	98,143	77.5	13,370,850	0.95	9.2	
平成17年('05)	104,155	23,759	22.8	80,396	77.2	13,290,191	0.78	11.2	
平成18年('06)	93,294	21,145	22.7	72,149	77.3	—	—	13.3	
平成19年('07)	83,029	19,686	23.7	63,343	76.3	—	—	12.2	
平成20年('08)	80,369	18,504	23.0	61,865	77.0	—	—	11.1	
平成21年('09)	82,116	18,513	22.5	63,607	77.5	—	—	11.5	
平成22年('10)	73,492	17,348	23.6	56,144	76.4	—	—	10.6	
平成23年('11)	67,776	16,364	24.1	51,412	75.9	—	—	11.9	
平成24年('12)	59,469	14,547	24.5	44,922	75.5	—	—	11.2	
平成25年('13)	51,588	13,265	25.7	38,323	74.3	—	—	10.9	

(警察庁ホームページ 統計より)

【オートバイの盗難認知件数推移グラフ】



(警察庁ホームページ 統計より)

2. 取り巻く環境

近年の犯罪情勢は、刑法犯認知件数が平成8年から平成14年まで7年連続して増加し、平成14年の約285万件をピークに年々減少に転じ、平成25年には約132万件となった。その内で前年比増加件数の多いものとしては、工事場ねらい・自動車盗となった。刑法犯認知件数の減少には、官民合同での様々な防犯対策に加えて、社会の防犯意識の高まりが起因していると考えられる。

警察庁からホームページを通じて地域別の犯罪件数などの犯罪情報が提供されるようになり、地方自治体や地域住民自らが防犯に対する具体的な行動を起こし始めている。このような治安の回復には、警察による「検挙が最大の防犯」であることに変わりはないが、犯罪を未然に防ぐ環境づくりや住民の防犯意識の向上も必要不可欠である。例えば、犯罪の発生場所の一つとなっている駐車場を対象とした防犯対策の推進、すなわち、照明設備の設置及び増強、防犯カメラの設置、インフラ整備等は、刑法犯の認知件数を減少に向かわせている。

また、自動車盗難については、平成13年に官民合同PTがスタートし、平成14年の「第1次自動車盗難防止キャンペーン」以来、現在第13次キャンペーンを展開中であり、「自動車盗難等防止行動計画」にて関係省庁・関係団体が連携して各ワーキンググループを設置し、対策に取り組んでいる。これらの多方面にわたる取組みが奏功し、自動車盗難の減少に繋がったと言える。しかし本年も自動車盗難でキーなしの盗難認知件数の中には、イモビライザ装着車も確認されており、今後も電子盗難ツール等新たな盗難手口・状況の推移を見つめていく必要がある。この世界的に最も低い車両盗難率の維持とさらなる減少を図るべく「駐車場等における対策についての防犯指導及び広報啓発」や、自動車ユーザーが自己防衛する必要があることの周知を狙うべく、官民合同PTのホームページ上にてイモビライザ等盗難防止装置の普及促進、キー施錠の定着化推進、明るく監視された駐車場に駐車することのPR、「都道府県別自動車盗難認知件数」「車種別盗難率」などを掲載して、ユーザーへの広報啓発活動を継続展開中である。官民合同PTは、平成26年度も続けて活動が実施される。

オートバイ盗を含め、ユーザーに対する広報啓発活動の推進は引き続き重要であるが、盗難の発生状況や手口研究などを通じた実態の把握と、新しくそこから得られる情報に基づく有効な対策を、官民一体となって推進していくことがますます重要となっている。

3. 活動計画

(1) 自動車盗難手口調査による盗難防止対策案の検討

自動車盗難等の防止抑制に関する官民合同PTへ参画し、防犯対応状況、盗難状況、盗難手口に関する情報より盗難手口とその変化を把握し、盗難手口に関する問題点と対策を検討する。

(2) オートバイ盗難手口調査による盗難防止対策案の検討

自動車と同様で官民合同PTでの情報収集の継続による、盗難手口に関する問題点と対策を検討する。

(3) 地域性・特異性のある具体的な盗難手口調査の実施

盗難被害として狙われやすい車種（年式）及び盗難手口を、地域別に実態調査を実施する。具体的に困っている地域から推進する。

(4) トランク業界、建設業界等の盗難状況ヒアリング

これまで調査していない業界について現状把握のためヒアリングを実施する。

平成25年度 委員会・分科会事業活動計画

平成25年1月24日

活動スローガン：自動車・オートバイの視野を広げた調査活動

委員会名 分科会名	自動車オートバイ委員会
委員長名 主査名	西本 昇

活動内容 (具体的に箇条書きで記入)	<p>1. 自動車盗難手口調査 委員在住地域で調査実施、現車調査方法見直し検討、官民合同PT実施</p> <p>2. オートバイ盗難手口調査 委員在住地域で調査実施、現車調査方法見直し検討、官民合同PT実施</p> <p>3. 地域性・特異性のある具体的な盗難手口調査 車種別年式、地域別での実態調査 具体的に困っている地域から実態調査を推進する</p> <p>4. トランク業界、建設業界等の盗難状況ヒアリング</p> <p>5. 防犯設備土テキスト(H27改定)に向けて 自動車オートバイ用防犯設備の設置・運用の注意事項 盗難対策用語の説明</p> <p>6. 活動報告まとめ</p>	達成目標 及び時期 (具体的に記入)	1. これまでの自動車盗難に関する調査実施 (H25. 4月～H26. 3月)	
			2. これまでのオートバイ盗難に関する調査実施 (H25. 4月～H26. 3月)	
			3. 盗難被害に狙われやすい車種/年式の実態調査 (H25. 4月～H26. 3月) →具体的な盗難対策方法の提案 (H26. 3月～) 盗難件数が増加傾向の地域の実態調査 (H25. 4月～H26. 3月) →具体的な盗難対策方法の提案 (H26. 3月～)	
			4. 各業界での盗難状況の実態把握と対策方法の推奨提案 (仮説)	
			5. 防犯設備土の方がわかるような用語解説と設置・運用の注意事項 盗難対策用語の説明、トラブル事例の原稿作成 (H25. 9月～H26. 3月)	
			6. 上記の活動報告まとめ (H26. 1月～H26. 3月)	

日 程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備 考
委員会開催予定	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
事業費予算 開 通													

下記の計画があれは記載下さい
ガイド・資料等の発行・改訂予定
その他活動予定で費用を要するもの

上記3. 地域性の実態調査で盗難現場の地域へ出向いての調査視察

4. 自動車

4. 1 活動成果

(1) 自動車盗難手口等を、千葉県警察本部、愛知県警察本部に御協力をいただき、県毎の情報をいただいた。

① 千葉県警察本部へ訪問し自動車盗難に関する情報を入手した。

・場所別発生状況

上位 3 形態

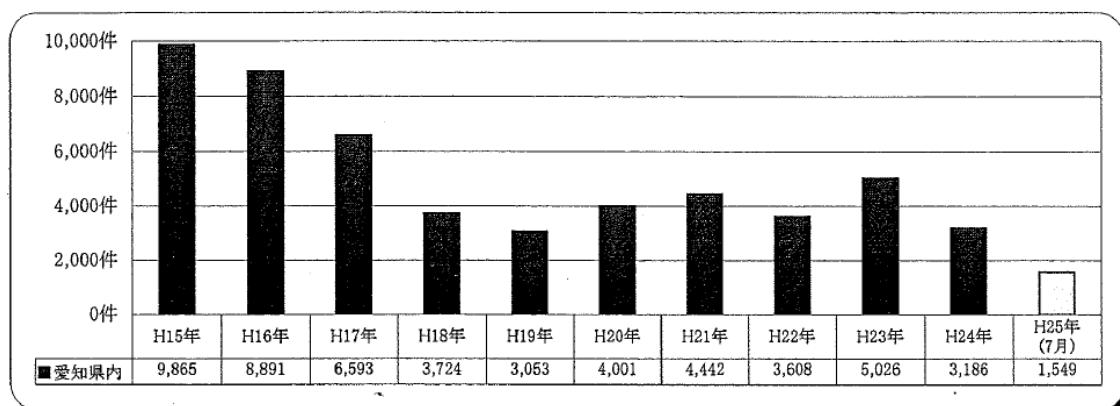
- | | |
|-------------|-------|
| 1 位：月極駐車場 | 473 件 |
| 2 位：その他の駐車場 | 422 件 |
| 3 位：会社事務所 | 237 件 |

・盗難の多い自動車 (H25. 1～H25. 7)

- | |
|-----------------------|
| 1 位：普通貨物自動車 (ハイエース含む) |
| 2 位：セルシオ |
| 3 位：プリウス |

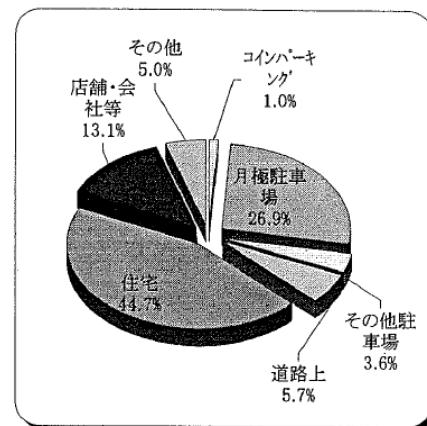
② 愛知県警察本部へ訪問し自動車盗難に関する情報を入手した。

・愛知県内 過去 10 年の認知件数の推移



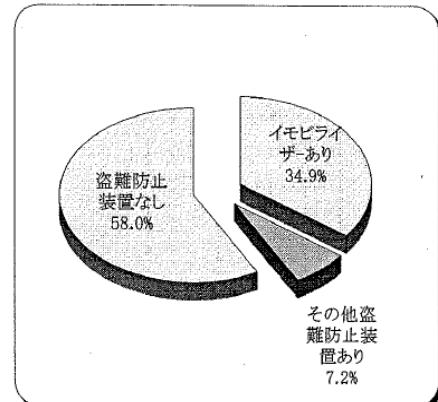
・場所別発生状況

	H25年		H24年		増減		
	認知件数	構成率	認知件数	構成率	認知件数	構成率	
駐車場	コインパーキング*	16	1.0%	28	1.3%	-12	-0.3%
	月極駐車場	416	26.9%	587	27.3%	-171	-0.4%
	その他駐車場	56	3.6%	367	17.0%	-311	-13.4%
駐輪場					±0	±0%	
道路上	89	5.7%	118	5.5%	-29	+0.3%	
住宅	692	44.7%	796	37.0%	-104	+7.7%	
店舗・会社等	203	13.1%	171	7.9%	+32	+5.2%	
その他	77	5.0%	87	4.0%	-10	+0.9%	



・盗難防止装置の状況

	H25年		H24年		増減	
	認知件数	構成率	認知件数	構成率	認知件数	構成率
イモビライザ-あり	540	34.9%	807	37.5%	-267	-2.6%
その他盗難防止装置あり	111	7.2%	129	6.0%	-18	+1.2%
盗難防止装置なし	898	58.0%	1,218	56.5%	-320	+1.4%



・盗難の多い自動車 (H25. 1～H25. 7)

- 1位：ランドクルーザー
- 2位：プリウス
- 3位：クラウン
- 4位：セルシオ
- 5位：インプレッサ
- 6位：ハイエース

上記千葉県・愛知県でヒアリングした盗難情報と全国データとを比較し
「千葉県、愛知県での自動車盗難発生状況比較」に纏めた。(参考資料3)

(2) その他の主な活動は下記の通りであった。

- ① 自動車盗難等の防止に関する官民合同P T会議への参加
- ② 広島県内 2013年盗難状況の調査実施。(参考資料4)

4. 2 今後の課題

自動車盗難等の防止に関する官民合同 P T 会議も改めて平成 28 年 12 月まで延長することとなり、当委員会としても会議に積極的に参画し、盗難情報の収集、対策案の提案などを行っていく。

また、委員会でも以下の調査を実施し情報収集と対策案の提案をしていく。

- (1) 自動車盗難に対する講演会、意見交換会、手口実演等の参画
- (2) 自動車盗難防止対策の提案を実施していく為に、地域性、特異性のある具体的盗難手口の調査実施と対策の提案（車種別、年式別、地域性）
- (3) トラック業界、建設業界、レンタカー業界の盗難（犯罪）状況調査と対策の提案

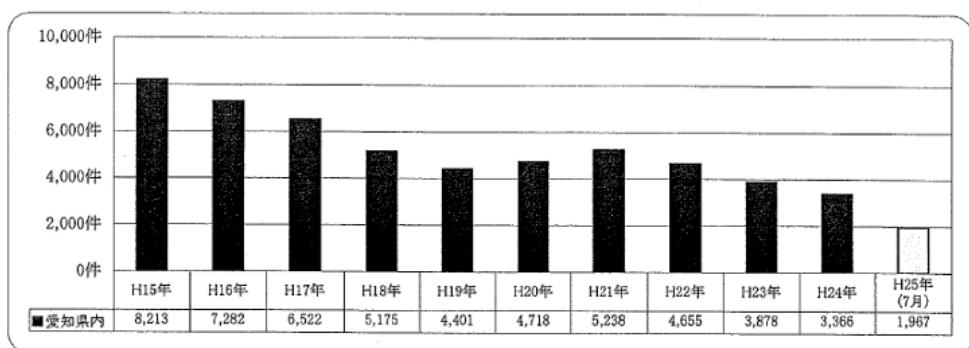
5 オートバイ

5. 1 活動成果

- (1) オートバイ盗難実態の情報収集

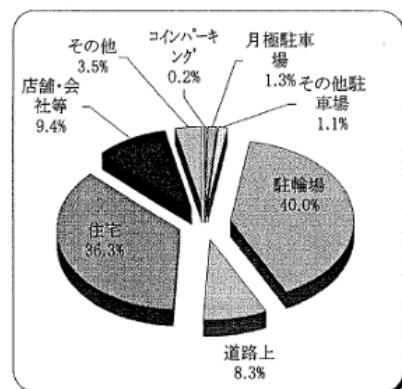
愛知県警察本部へ訪問し、盗難に関する情報を収集した。

愛知県内 過去 10 年の認知件数の推移



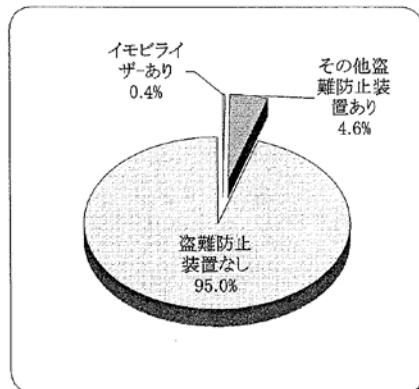
場所別発生状況

駐 車 場	H25年		H24年		増減	
	認知件数	構成率	認知件数	構成率	認知件数	構成率
コインパーキング	3	0.2%			+3	+0.2%
月極駐車場	26	1.3%	17	0.9%	+9	+0.4%
その他駐車場	22	1.1%	105	5.6%	-83	-4.5%
駐輪場	786	40.0%	911	48.3%	-125	-8.4%
道路上	164	8.3%	150	8.0%	+14	+0.4%
住宅	714	36.3%	531	28.2%	+183	+8.1%
店舗・会社等	184	9.4%	118	6.3%	+66	+3.1%
その他	68	3.5%	53	2.8%	+15	+0.6%



盗難防止装置の状況

	H25年		H24年		増減	
	認知件数	構成率	認知件数	構成率	認知件数	構成率
イモビライザーあり	8	0.4%	5	0.3%	+3	+0.1%
その他盗難防止装置あり	90	4.6%	77	4.1%	+13	+0.5%
盗難防止装置なし	1,869	95.0%	1,803	95.6%	+66	-0.6%



盗難の多いオートバイ 上位 10 車種

	メーカー	車種	排気量
1	ホンダ	モデルA	50cc
2	ヤマハ	モデルA	50cc
3	スズキ	モデルA	50cc
4	ホンダ	モデルB	50cc
5	ホンダ	モデルC	50cc
6	ホンダ	モデルD	50cc
7	ヤマハ	モデルB	50cc
8	ホンダ	モデルE	50cc
9	ホンダ	モデルF	50cc
10	スズキ	モデルB	50cc

5.2 対策の提案

(1) イモビライザ等の電気的な盗難防止装置の装着が盗難減少に大きく寄与していると予想されるが廉価車への普及拡大が見込まれない事から、U字ロック等盗難防止装置を複数にするといった対応が望まれる。

5.3 今後の課題

(1) 盗難状況調査の継続

手口や盗難状況の調査を行い、その分析結果を継続して積み上げていく必要があるが、特に盗難現車調査の情報収集が難しくなっている現実があることから、調査内容、方法等の見直しを行う必要がある。

(2) 駐輪状況調査の継続

定期的な全国規模での駐輪状況調査を継続していくと共に、頻度を高めたピンポイントでの調査も検討していく必要がある。駐輪場の環境変化も含め、過去に実施した調査との比較分析も進めていく。

(3) オートバイ盗難防止意識向上の啓発活動推進

オートバイ盗難が年々減少しており、それに伴い盗難に対する意識が低下してきていると思われる。

これは、駐輪場や住宅において盗難が多いことからもうかがえる。

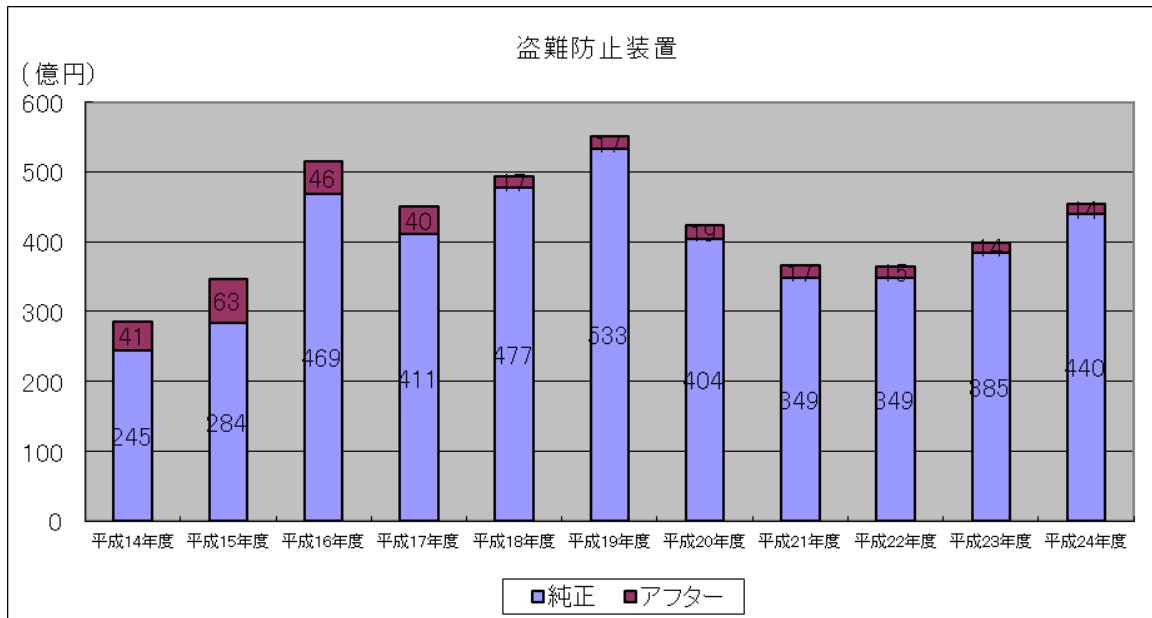
意識向上の啓発活動を推進していく。

6. 盗難防止装置（アフターマーケット市場）

6. 1 盗難防止装置の出荷動向

平成25年度の盗難防止装置の生産出荷額は年々減少傾向にあったが、純正市場においては、イモビライザやその他の盗難防止警報装置のライン装着率の高まり、円安による景気の回復、消費税前の駆け込み需要などによる自動車新車生産台数の増加により伸びをしめした。

アフター市場においては、盗難件数の減少によって関心が薄れしたことや、単価の下落傾向があり、出荷額は減少傾向にある。



出典：(一社)日本自動車部品工業会/(株)富士経済による

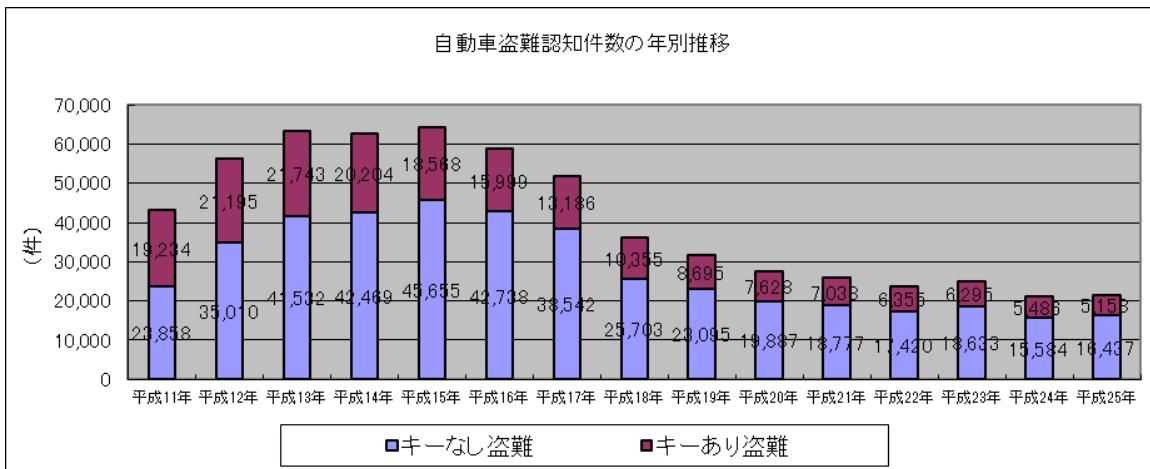
6. 2 自動車盗難の現状

警察庁発表による「盗難自動車の被害回復件数」データによると、平成25年の盗難自動車の被害認知件数は、21,595件であった。その内訳は、キーをつけた状態（キーあり）での盗難被害件数が5,158件、キーが付いていない状態（キーなし）での盗難被害件数が16,437件であり、キーなし状態の被害比率が76.1%である。これはキーあり状態の被害件数の約3.2倍であり、キーなし状態の被害比率は過去最高である。

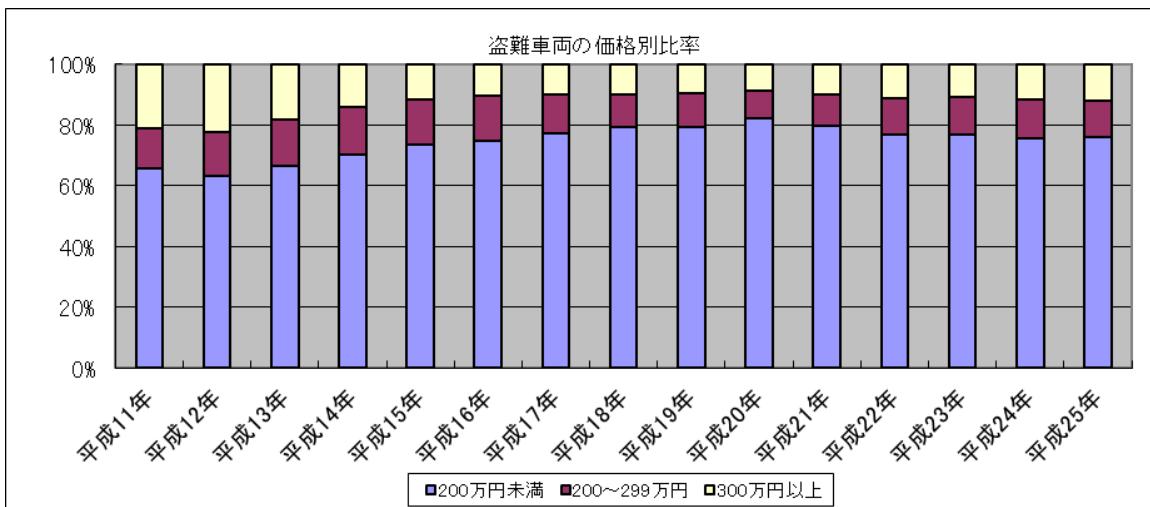
キーあり状態での自動車盗難は、自動車オーナーの油断によるものも多いが、キーなし状態での被害比率が高いということは、車から離れる時にキーを抜いただけでは安心できない現状にあるといえる。

またドアに鍵を掛けっていても盗まれた例も多く、鍵を掛けっていても自動車を盗んでしまうプロの犯行が多いともいえる。盗難車両は海外へ輸出されてしまうケースもあり、自動車オーナーの元に戻らない比率が高い。イモビライザが装着されている車でもスペアキーを作られる手口も判明しているが、自動車メーカーによる対策も進んでいる。一部の県ではイモビカッターの所持、販売を禁止する条例を制定している。（茨城県、千葉県）

最近では自動車用レーダー探知機を利用することにより、実行犯が警察車両の接近を把握することが可能となり、現行犯での検挙が困難になっている一面がある。



(注) 本統計は車両本体の盗難であり、部品盗難、車上ねらいは含まれない。



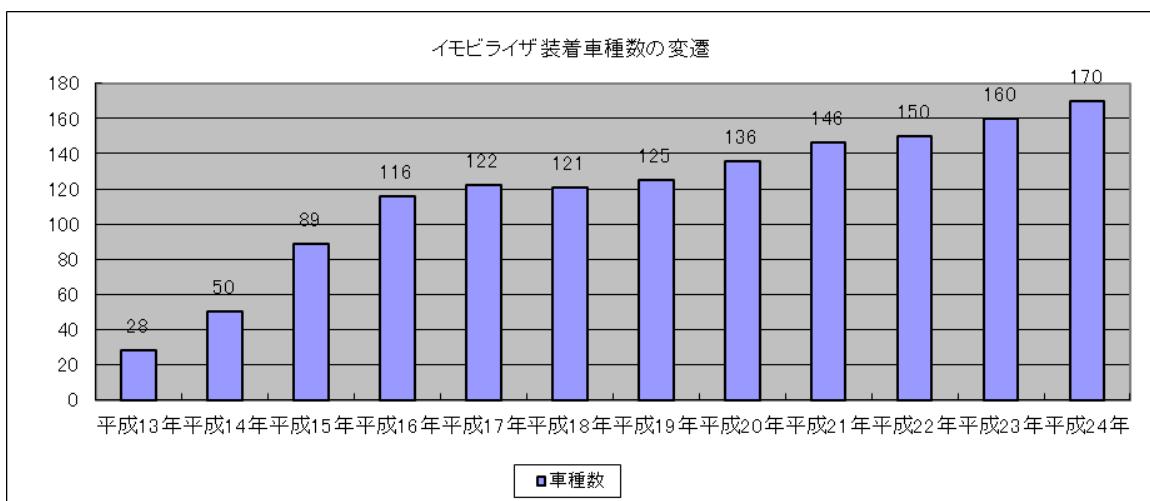
出典：警察庁統計より

平成 25 年度の自動車盗難認知件数、21,595 件を車両の価格別に分類すると、300 万円以上が 2,598 件となっている。盗難自動車の価格別被害件数は前記の通りで、高級車ばかりが狙われているわけではない現状が見て取れる。

警察庁発表によるデータから、平成 11 年から平成 25 年の盗難車両の価格別比率をグラフで比較してみると上図のようになる。

平成 12 年以降、200 万円以上の盗難比率が減少し、200 万円未満の盗難比率が増加傾向にあったが、平成 21 年以降再び 200 万円以上の盗難比率が増加した。

200 万円以上の自動車の盗難比率の増加の一因として、イモビライザの普及が高級車に行き渡り、廉価車へも搭載が開始されたことにより、再び高級車を狙うようになったと考えられる。ちなみに、年度毎のイモビライザ搭載車種推移は下記図の通りである。



出典：官民合同PTより

(注) イモビライザを設定(標準またはオプション)している車種の数を合計したもの

上図の通り、平成13年には28車種だったイモビライザ搭載車が、平成24年には170車種までに拡大した。

6. 3 盗難防止装置の種類

車両本体・装備部品や車内の物品を盗難から守る為の装置。

ハンドルやホイールに装着する簡易的なものから、サイレンやホーンを鳴らしたり、ハザードやライト類を点滅することにより警報を出すもの、また、盗難後にGPSやPHS・携帯電話基地局位置情報サービスを利用して自動車の位置を知らせたりするものまで、様々な装置がある。

6. 3. 1 機械装置

ハンドルロック、ペダルロック、シフトロック、タイヤロックなど、

ハンドル操作をできなくなる装置。 シフトチェンジを困難にする装置。

車輪回転を機械的に制限する装置。



(ハンドルロック製品例)



(装着例)



(タイヤロック製品例)



(装着例)

6. 3. 2 電子装置

車に装着する電子機器による警報・防御装置のこと。

車に外力が加えられた時、音と光で警告し、人目を引き、犯行を防ぐもの。

さらにエンジンを掛けられないようにし、車両盗難を防ぐものもある。

(1) 簡易取り付けタイプ

サンバイザー等へユーザー自身で取り付け可能なものの。取り付けが簡単で手軽に防犯対策が出来る。音と光で威嚇する。



(簡易取り付けタイプモデル例)



(装着例)

(2) 配線取り付けタイプ（インストールタイプ）

センサー、電子機器、ブザー（サイレン）などを車両組み込み配線とは別配線で容易に外されないようなセキュリティ性の高い施工をして車両に組み付けるもの。

高機能な装置では、音と光で威嚇する、エンジンをからなくさせる、車の異常を知らせてくれるなど、さらに防犯効果が高められる。

2006年7月以降（軽自動車は2008年7月以降）に初年度登録した車両に盗難防止装置を取付ける場合は、道路運送車両法の新保安基準に適合した製品を選ぶ必要がある。



(配線取り付けタイプモデル例、センサー等を追加することによりシステムアップできる)

(3) 車両位置検索タイプ

万一、車が盗まれてしまった場合にも、車の異常を携帯電話等に通報したり、盗難車の位置を検索・追跡したりする機能を持つシステム。



(位置情報サービス機能が付いた製品では、盗難時の緊急通報や盗難ルートの追跡確認などができる)

6.3.3 ドライブレコーダー

車に装着する録画式のカメラのこと。当初は自己の証拠保全の目的で使われてきたが、最近ではタクシー、バスなどの公共の乗物の防犯機器としての使用も見られるようになった。タクシーにおいては強盗対策として車内のカメラが主であるが、バスのドライブレコーダーを地域の「移動式防犯カメラ」として運用する例も見られる。

カメラ、録画機器、録画媒体、マイク、GPS などで構成される。高機能製品になると、カメラを 7 台程度設置可能、車速やブレーキ、ワインカーの情報を記録し、GPS 機能で経由地を判別できるものもある。



(ドライブレコーダーの構成例)



(ドライブレコーダーの記録例)

- ① 複数のカメラ画像を同時に見ることができる。一つを拡大してみることも可能。
(本事例ではカメラ 7 台を例示)
- ② GPS と連動させることで地図との連動も可能。移動式防犯カメラとして利用する場合には位置の特定もしやすくなる。

6. 4 自動車盗難防止対策

6. 4. 1 日ごろの心がけで出来ること

- (1) 車の鍵は必ずかける
- (2) 車内に貴重品などを置かない
- (3) キーを付けっぱなしで車から離れない
- (4) 駐車する場所に気をつける

暗くて人目につきにくいところより、明るく人目に付きやすく、防犯カメラが設置してあるところの方が安全である。

6. 4. 2 盗難防止効果のあるもの

何らかの防御手立てをすることで盗難防止効果があがる。

(1) 盗難防止装置

6. 3項の装置を付けることで抑止効果が高まる。盗難の形態も様々なので単機能よりも複合機能のものの方が盗難抑止効果が高くなる。

(2) シャッター付駐車場

シャッターが開けられてしまうと効果はないが、心理的に攻撃しにくくさせる。また、車種を分からなくし、備品が見えなくなるので防犯効果が高まる。自動車自体に盗難防止装置が装着してあれば防止効果はさらに高まる。

(3) ボディカバー

車種を分からなくし、備品を見えなくすることで、防犯効果は高い。

(4) その他に、盗難防止装置ではないが次の処置をすることで「盗みにくい車」と思われる出来が出来、一定の抑止効果が期待できる。

①車体番号刻印

車のフロントガラス部分に車体番号を刻印することで、盗難車両の発見をしやすくする効果がある。

②「セキュリティ装着車」シール

セキュリティを装着している車であることの表示をする。



③ダミーLED

セキュリティ装着車シールと同じで、LEDを点滅させて、電子的セキュリティを装着しているように光で威嚇する

盗難防止効果を上げるにはさまざまの抑止手立てがあるが、車両に対してどこまでの盗難防止装置を装着するかは車両オーナーしだいである。盗難被害に遭わないためには、これら日ごろの心がけ、また盗難防止効果のある装置を活用するなど個々人が防犯意識を高めていくことが肝要である。

7. その他の活動

7. 1 今年度その他の活動について下記に示す。

- (1) 「自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチーム・官民合同 P T 事務担当者会議」への出席
[開催日]平成 25 年 4 月 23 日
[場所] 損保会館 16 階 理事会室
[出席者] 友廣 事務局
① 平成 26 年 1 月以降の官民合同 P T 及びキャンペーンについて
- (2) 「自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチーム・第 13 次広報啓発キャンペーンにかかるコンペ」への出席
[開催日]平成 25 年 8 月 2 日
[場所] 損保会館 4 階 404 会議室
[出席者] 西本委員長 友廣 事務局
① 第 13 次広報啓発活動キャンペーンについて
② 千葉駅前でのキャンペーンチラシ配り参加 (10 月 7 日)
- (3) 「自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチーム・官民合同 P T 事務担当者会議」への出席
[開催日]平成 25 年 11 月 28 日
[場所] 警察庁 (合同庁舎 2 号館) 警察庁共用会議室 1
[出席者] 飯高委員
① 自動車盗難等防止行動計画の見直しについて
② 新規参画団体について
③ ワーキンググループの在り方について
④ 第 23 回自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチーム開催について
- (4) 「第 23 回自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチーム総会」への出席
[開催日] 平成 25 年 12 月 20 日
[場所] 警察庁 (合同庁舎 2 号館) 警察庁共用会議室 1
[出席者] 西本委員長
① 自動車盗難の情勢について
② 関係団体等の取組状況について
③ 第 13 次自動車盗難防止キャンペーンの実施報告
④ 自動車盗難防止対策に関する事例発表

- ⑤ 自動車盜難等防止行動計画の見直しについて
- ⑥ 新規参画団体について
- ⑦ ワーキンググループの見直しについて
- ⑧ 第14次自動車盜難防止キャンペーンについて

(5) 「千葉県における自動車・オートバイの盜難に関する調査」千葉県警察本部へ訪問

[開催日] 平成25年8月5日

[場所] 千葉県警本部 捜査3課

[出席者] 西本委員長、由比委員、三村特別委員、友廣 事務局

- ① 自動車盜について質問リストにより質疑

(6) 「愛知県における自動車・オートバイの盜難に関する調査」愛知県警察本部へ訪問

[開催日] 平成25年9月6日

[場所] 愛知県警本部 生活安全部生活安全総務課

[出席者] 西本委員長、吉田副委員長、松尾委員、友廣事務局

- ① 自動車盜について質問リストにより質疑
- ② 二輪車盜難について質問リストにより質疑

おわりに

関係各位及び各委員のご協力により、平成25年度多くの成果をあげることができました。あらためてご協力に対し感謝の意を表します。

当委員会は「車両盗難を防止し、安全で安心な社会を築き、守って行くこと」を目的とし、盗難防止機器メーカーの委員を中心として長年に渡り調査研究活動を続けて来ました。

刑法犯認知件数もピーク時の2002年に比べ2013年は半分以下となり、数字の上では安全な世の中に向かっていると言えます。しかしながら2012年の内閣府特別世論調査によると81.2%の人がこの「10年間で日本の治安は悪くなっている」と答え、数字に反して安全を実感できない状況が続いております。

刑法犯認知件数が最大であった2002年は、世界最大の国際スポーツ大会であるサッカーワールドカップが日本で開催された年であり、2020年の東京オリンピック開催が決定した今、再び増加する危険性も秘めていると言えなくもありません。

自動車やオートバイは年々その性能を高め、安全で快適な「高付加価値商品」へと進化して来ています。

当委員会も参画している官民合同PTおよび参画団体の熱心な取組みや関係各位のお力添えにより、我が国の車両盗難は、世界的にも低い盗難率で推移し、更なる削減を実現することができました。

この低い盗難率を世界にアピールし続けるためにも、当委員会はこれからもこの活動を継続し、今後も注意深く盗難手口・状況の推移をみつめ、安全で安心な社会実現に向けてさらなる貢献をしていく所存です。

自動車・オートバイ委員会
副委員長 吉田 裕康

参考資料

1. 日本損害保険協会「第15回 自動車盗難事故実態調査結果」
2. 自動車のイモビライザ装備車数年別推移
3. 千葉県、愛知県での自動車盗難発生状況比較
4. 平成25年広島県自動車オートバイの盗難状況調査

1. 日本損害保険協会「第15回自動車盗難事故実態調査結果」

NEWS RELEASE



一般社団法人 日本損害保険協会

〒101-8335 東京都千代田区神田淡路町2-9

<http://www.sonpo.or.jp>

No. 13-025

2014年3月18日(火)

第15回自動車盗難事故実態調査結果発表

~ハイエースの自動車盗難被害が大幅増加、人気車種の被害が多発~

一般社団法人 日本損害保険協会(会長:二宮 雅也)では、自動車盗難の防止対策に取り組んでおり、損害保険会社が2013年11月に保険金を支払った事案(自動車盗難619件、車上ねらい・部品盗難1,092件)を対象に自動車盗難事故実態調査を実施しました。

本調査は2000年から実施しており、今回が15回目となります。

自動車盗難(調査総数:619件)

- ・ハイエースの被害が昨年に比べ大幅増加で7年連続ワースト1位。
- ・プリウスが2位、アクアがワースト20位入り。

車名別盗難状況 - 車両本体盗難

本体盗難

2011年11月調査			2012年11月調査			2013年11月調査						
順位	車種	件数	構成比	順位	車種	件数	構成比	順位	車種	件数	構成比	
1	ハイエース	117	17.1%	1	ハイエース	67	13.1%	1	ハイエース	148	23.0%	
2	セルシオ	68	10.1%	2	クラウン	53	10.4%	2	プリウス	70	11.3%	
3	ランドクルーザー	63	9.2%	3	セルシオ	45	8.8%	3	ランドクルーザー	46	7.4%	
4	クラウン	48	7.0%	4	プリウス	33	6.4%	4	セルシオ	38	6.1%	
5	プリウス	32	4.7%	5	ランドクルーザー	25	4.9%	5	クラウン	32	5.2%	
6	ワゴンR	19	2.8%	6	フォワード	13	2.5%	6	マークX	17	2.7%	
7	カムリ	18	2.6%	7	ヒノレンジャー	12	2.3%	7	インプレッサ	13	2.1%	
8	ハリアー	15	2.2%	8	キャンター	11	2.1%	8	エルフ	13	2.1%	
9	インプレッサ	13	1.9%	9	マークX	11	2.1%	9	インテグラ	11	1.8%	
10	フォワード	13	1.9%	10	ワゴンR	11	2.1%	10	ハリアー	11	1.8%	
11	マークX	13	1.9%	11	エルフ	10	2.0%	11	ヒノレンジャー	11	1.8%	
12	カローラ	10	1.5%	12	ライフ	10	2.0%	12	ファイター	11	1.8%	
13	ヒノレンジャー	9	1.3%	13	ファイター	9	1.8%	13	フォワード	11	1.8%	
14	レガシィ	9	1.3%	14	レガシィ	9	1.8%	14	カローラ	10	1.6%	
15	インテグラ	8	1.2%	15	インプレッサ	8	1.6%	15	BMW	8	1.3%	
16	キャンター	8	1.2%	16	ダイナ	8	1.6%	16	レガシィ	9	1.5%	
17	フォレスター	8	1.2%	17	アルファード	7	1.4%	17	ランサー	8	1.3%	
18	RAV4	7	1.0%	18	ハリアー	7	1.4%	18	キャンター	7	1.1%	
19	アルファード	7	1.0%	19	カローラ	5	1.0%	19	シビック	7	1.1%	
20	ヴィッツ	7	1.0%	20	スカイライン	5	1.0%	20	アクア	8	1.3%	
21	フォクシー	7	1.0%	22	フォレスター	5	1.0%	22	ワゴンR	6	1.0%	
23	スカイライン	7	1.0%									
24	ベンツ	7	1.0%									
上位20車種合計(86)			514	75.3%	上位20車種合計(86)			364	71.1%	上位20車種合計(86)		
その他車種			169	24.7%	その他車種			148	28.9%	その他車種		
合計			683	100.0%	合計			512	100.0%	合計		

※複数登録の割合で「上位20車種合計」の構成比は、上位20車種構成比の合計数値と合わない場合があります。

(注) 1. フルセグには、W+28、237+を含む。 3. ハンドルには、GTRを含む。 5. GTRにはW+73、GTR+7を含む。
2. ランドクルーザーには、アド+を含む。 4. プリウスには、M35、M35+、アド+を含む。

車種別では、ハイエースの被害件数が148件で23.9%を占め、対前年81件・10.8ポイントの増加(結果報告15ページ参照)で、2007年調査から7年連続でワースト1位となりました。

車齢別では、初度登録から盗難までの期間が5年以上の車両が車両盗難全体の7割以上を占める(結果報告7ページ参照)ことから、年式が古く、最新車種と比較して相対的に防盗性能が低い車が狙われる傾向にあることがうかがえます。

ハイエースには2012年5月発売モデルから盗難防止装置であるイモビライザが全車標準装備されていますが、年式が古い車の場合はバー式ハンドルロックやセンサー式警報装置、GPS追

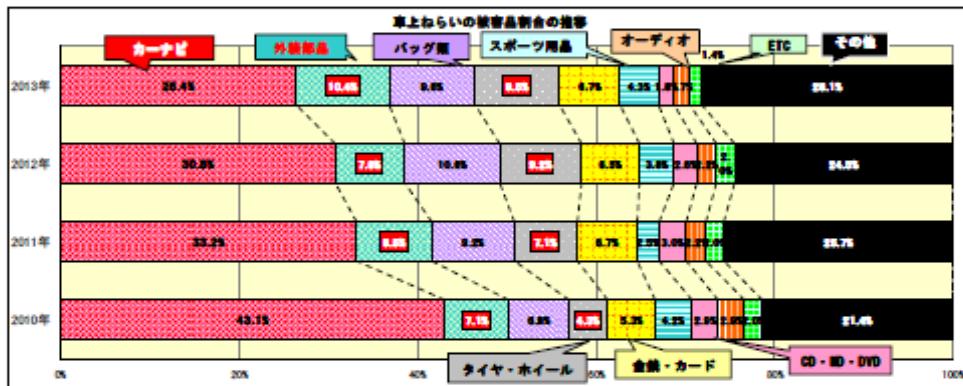
跡装置など複数の盗難防止装置を活用し、より一層の自己防衛を行う必要があります。

一方、防盗性能の高い最新車種が被害に遭わないとは言い切れません。前年ワースト4位のプリウスの被害件数は70件で11.3%を占め、対前年37件・4.9ポイントの増加でワースト2位となりました。また、2013年の年間新車乗用車販売台数1位(※)のアクアが初めてワースト20位に入りました。市場流通量の多い人気車種は窃盗犯に狙われるリスクも高いため、ユーザーは注意が必要です。

(※)一般社団法人日本自動車販売協会連合会調べ。

車上ねらい・部品盗難(調査総数: 1,092件)

・外装部品(バンパー・ドアミラー等)、タイヤ・ホイールの被害割合が増加。



カーナビの被害件数は334件で26.4%を占め、対前年328件・4.4ポイントと大幅に減少(結果報告19ページ)する一方、バンパー・ドアミラー等の外装部品(132件・10.4%)、タイヤ・ホイール(120件・9.5%)の被害割合が増加しています。

これらの部品は転売目的で狙われるケースが多いと考えられます。対策としては、窃盗犯に狙われにくい次のような駐車場選びが重要です。

1. 明るく見通しが良い。
2. 防犯カメラが設置され、場内に死角がない。
3. 夜間でも明るい照明やセンサー・ライトが設置されている。
4. 出入口にゲートが設置されており、関係車両以外は侵入できない。

＜お問い合わせ先＞ 広報室・柴田 文明、山川 奈津子 (TEL:03-3255-1213)

※本資料は、日銀記者クラブ、国土交通記者会、警察庁記者クラブおよび自動車産業記者会に同時に配布しております。

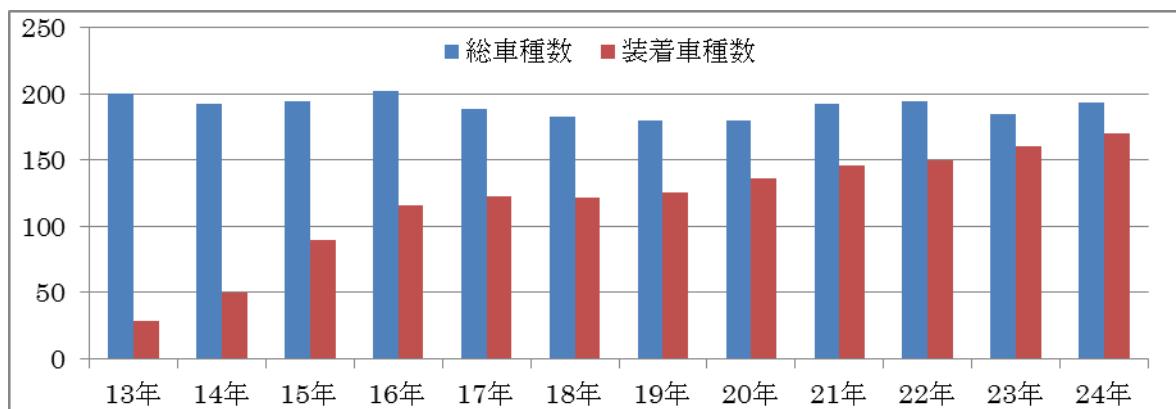
私たちが選ぶ地球の未来・・・限りある資源を大切に使いましょう！

2. 自動車のイモビライザ装着車数年別推移

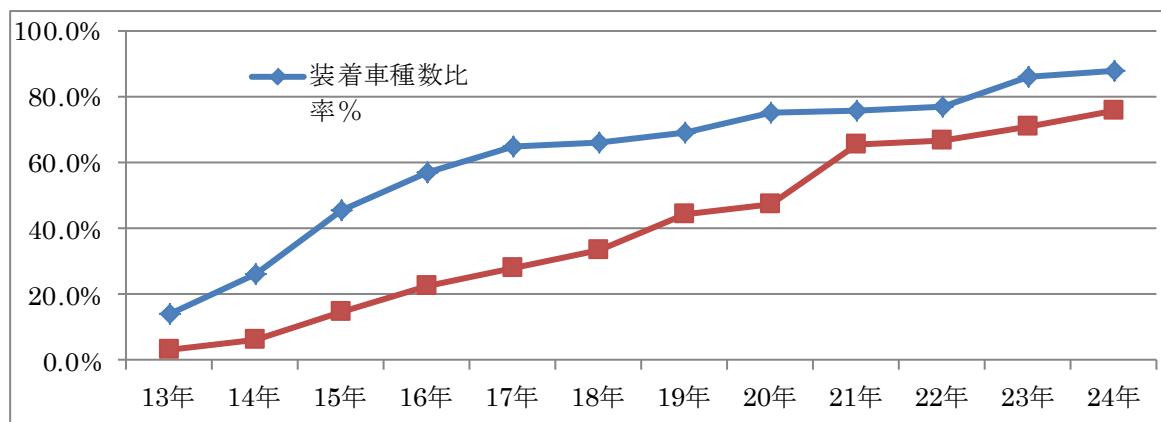
平成 25 年 12 月 20 日

イモビライザ装着車種数等の年別推移

◎装着車種数 (乗用車の標準およびオプション装着車種数)



	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
総車種数	200	192	194	202	188	183	180	180	192	194	185	193
装着車種数	28	50	89	116	122	121	125	136	146	150	160	170
装着車種数比率%	14.0%	26.0%	45.9%	57.4%	64.9%	66.1%	69.4%	75.6%	76.0%	77.3%	86.5%	88.1%



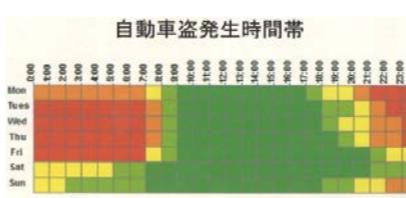
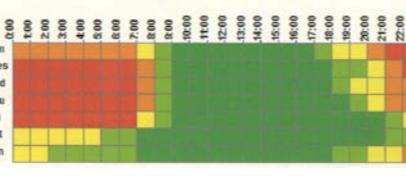
◎装着台数(乗用車の国内向け生産台数のうち、標準およびオプション装着台数の割合) (千台)

	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
装着台数	145	293	650	1,046	1,305	1,486	1,857	1,976	2,479	2,695	2,341	3,249
生産台数	4,456	4,472	4,434	4,574	4,655	4,420	4,175	4,178	3,788	4,049	3,304	4,265
装着台数比率%	3.3%	6.6%	14.7%	22.9%	28.0%	33.6%	44.5%	47.3%	65.4%	66.6%	70.8%	76.2%

出典：官民合同 PT

3. 千葉県、愛知県での自動車盗難発生状況比較

情報元は、千葉県警察本部、愛知県警察本部のヒアリング情報、第23回官民合同PT会議資料、及び警察庁からの自動車盗難状況データによる。

No.	項目	千葉県	対象期間	愛知県	対象期間	全国	対象期間
1	自動車盗難発生件数	1位: 1,866件 (7月まで) 1位: 3,295件 (12月末) 前年比:+915件 (+38.4%)	平成25年中 (7月まで)	2位: 1,549件 (7月まで) 2位: 2,712件 (12月末) 前年比:-474件 (-14.9%)	平成25年中 (7月まで)	12,710件 (7月まで) 21,595件 (12月末) 前年比:+525件 (+2.5%)	平成25年中
2	盗難事案に見られる特徴	ハイエース、貨物車種の盗難が多い	平成25年中	イモビライザ装着車種の盗難が多い。	—	—	—
3	対前年比の増加、減少要因	過去に検挙した大型自動車盗グループの被疑者が派出所、新たなネットワークを構築し犯行している。	平成25年中	・「イモビカッター」所持規制の条例施行。 平成25年7月1日。 ・「ビジブル・ピン」をランドクルーザーに搭載。	—	—	—
4	盗難の多い自動車と件数	1.各社普通貨物車 (ハイエース含む) 2.セルシオ 3.プリウス ・普通貨物車が多い。	平成25年中 (7月まで)	1. ランドクルーザー: 全体の40% 2. プリウス 3. クラウン 4. セルシオ 5. インプレッサ 6. ハイエース ・全国的に多いハイエースが愛知では6位。	平成25年中 (7月まで)	1. ハイエース: 2,278台 2. プリウス: 908台 3. ランドクルーザー: 751台 4. セルシオ: 635台 5. クラウン: 628台 6. エルフ: 548台	平成25年 (10月まで) 官民合同PT (12/20)
5	イモビライザ あり/なし 比率 (自動車盗)	あり: 213台 (11.4%) なし: 1,653台 (88.6%) ・全国レベルに近い比率。	平成25年中 (7月まで)	あり: 540台 (34.9%) なし: 1,009台 (65.1%) ・全国と比べイモビライザありの発生比率が高い。	平成25年中 (7月まで)	あり: 1,153台 (9.4%) なし: 11,173台 (90.6%)	平成25年中 (7月まで)
6	キーあり/キーなし 比率 (自動車盗)	キーあり: 366台 (19.6%) キーなし: 1,500台 (80.4%) ・全国レベルに近い比率。	平成25年中 (7月まで)	キーあり: 362台 (23.4%) キーなし: 1,187台 (76.6%) ・全国レベルとほぼ同じ比率。	平成25年中 (7月まで)	キーあり: 5,158台 (23.9%) キーなし: 16,437台 (76.1%)	平成25年中 (1-12月)
7	検挙者の年令 (自動車盗)	10歳代: 9 (27.3%) 20歳代: 9 (27.3%) 30歳代: 6 (18.2%) 40歳代: 4 (12.1%) 50歳代: 3 (9.1%) 60歳代: 1 (3%) 70歳代: 1 (3%) 合計:33人 ・10歳~30歳代に多い傾向。	平成24年	10歳代: 15 (27.8%) 20歳代: 14 (25.9%) 30歳代: 9 (16.7%) 40歳代: 8 (14.8%) 50歳代: 5 (9.3%) 60歳代: 3 (5.6%) 70歳代: 0 (0.0%) 合計:54人 ・10歳~20歳代に多い傾向。	平成25年中 (7月まで)	—	—
8	検挙者の国籍比率 (日本人、外国人の比率) (自動車盗)	日本人: 32名 (97%) 外国人: 1名 (3%)	平成25年中 (7月まで)	日本人: 41名 (75.9%) 外国人: 13名 (24.1%)	平成25年中 (7月まで)	—	—
9	ナンバープレート盗難	自動車: 507件 (72.0%) 二輪車: 197件 (28.0%)	平成25年中 (7月まで)	自動車: 994件	平成25年中 (7月まで)	—	—
10	盗難多発場所の特徴 (自動車盗)	人口密度に比例している。 東葛方面、松戸柏方面、千葉市街、市原市周辺に多い。 国道16号線の幹線道路沿いに多発傾向あ	平成25年中	名古屋市部: 512件 (33.1%) 西三河部: 392件 (25.3%) 西尾張部: 304件 (19.6%) 東尾張部: 294件 (19.0%)	平成25年中 (7月まで)	1位: 千葉県 3,295件 2位: 愛知県 2,712件 3位: 大阪府 2,466件 4位: 茨城県 2,425件	平成25年中 (1-12月)
11	発生場所形態 (自動車盗)	1. 月極駐車場: 473件 (41.8%) 2. その他駐車場: 422件 (37.3%) 3. 会社事務所: 237件 (20.9%) (上位3形態) ・全国的に月極駐車場は多いが、千葉県では貨物車両の盗難が多いいためか、会社事務所も20%とやや高い。	平成25年中 (7月まで)	1. 住宅: 692件 (44.8%) 2. 月極駐車場: 416件 (26.9%) 3. 店舗・会社等: 203件 (13.1%) 4. 道路上: 89件 (5.7%) ・月極駐車場より住宅が多い傾向にある。 自宅に駐車のスペースがある世帯が多い住宅事情に思われる。	平成25年中 (7月まで)	1位: 駐車場 9,907件 (49.5%) 2位: 一般住宅 3,251件 (16.2%) 3位: 道路上 1,117件 (5.6%) 4位: その他 5,758件 (28.7%)	平成25年中 (1-11月)
12	発生時間帯 (自動車盗)	深夜帯における被害が多い	平成25年中 (7月まで)	21時台から7時台までの発生が多い。 	平成25年中 (7月まで)	—	—
13	マードの場所と数 (自動車盗)	把握件数: 456ヶ所 全国的に見ても極めて多い。 四街道、柏市、佐倉市、成田市、市原市、木更津市周辺。 ・千葉県が圧倒的に多い。	平成25年 (8/5情報)	把握件数: 200ヶ所	平成25年 (9/6情報)	把握件数: 2,200件 (うち外国人関係1,800件) 千葉県: 456ヶ所 愛知県: 200ヶ所 茨城県: 100ヶ所 神奈川県: 100ヶ所 ・関東、中部の比率が多い。	平成25年 (12/20) 官民合同PT
14	千葉、愛知に盗難が多いのか?	1. 自動車保有台数が多い。 2. ヤード設置条件に適している。 3. 輸出港に近く、繋がる高速道路も整備されている。	平成25年 (8/5情報)	自動車保有台数が500万台を超える全国最多。 幹線道路網の充実が背景にある。	平成25年 (9/6情報)	—	—
15	車種による盗難手口の違い (自動車盗)	1. イグニッショニキーシリンダーを破壊しエンジン始動する。 2. イモビカッターを使用してエンジンを始動する。	平成25年 (8/5情報)	盗難装置が異なるので車種によりまちまち。	平成25年 (9/6情報)	—	—
16	最近の盗難手口 (自動車盗)	GPS機能付き車両対策のため、有料駐車場等に一時放置(通称寝かせ)をして、機能追跡の有無を確認後ヤードに運ぶ手口。	平成25年 (8/5情報)	現場の情報から、リレーアタックは起きていると推測している。	平成25年 (9/6情報)	—	—
17	車両侵入方法 (ピッキングと窓ガラス破損)	現場にガラス破片が遺留されるケースは少ない。 これまで発見された車両から、ドア鍵穴脇にドリルで穴を開けて工具を差し込み開錠する手口がある。	平成25年 (8/5情報)	窓ガラス破損が圧倒的に多い。	平成25年 (9/6情報)	—	—
18	曜日別盗難発生状況 (自動車盗)	月: 298件 (16.0%) 火: 278件 (14.9%) 水: 273件 (14.6%) 木: 268件 (14.4%) 金: 264件 (14.1%) 土: 252件 (13.6%) 日: 180件 (9.6%) 不明: 53件 (2.8%)	平成25年中 (7月まで)	自動車盗発生時間帯  月曜日～金曜日が多く、土曜日曜日が少ない傾向である。	平成25年中 (7月まで)	—	—
19	月別盗難発生件数 (自動車盗)	1月: 234件 (12.5%) 2月: 256件 (13.7%) 3月: 281件 (15.1%) 4月: 299件 (16.0%) 5月: 262件 (14.0%) 6月: 247件 (13.2%) 7月: 287件 (15.4%) ・4月、7月が僅かはあるが多い傾向にある。	平成25年中 (7月まで)	1月: 225件 (14.5%) 2月: 174件 (11.2%) 3月: 211件 (13.6%) 4月: 201件 (13.0%) 5月: 207件 (13.4%) 6月: 244件 (15.8%) 7月: 287件 (18.5%) ・7月が僅かではあるが多い傾向にある。	平成25年中 (7月まで)	1月: 1,710件 (13.5%) 2月: 1,615件 (12.7%) 3月: 1,892件 (14.9%) 4月: 1,863件 (14.7%) 5月: 1,808件 (14.2%) 6月: 1,796件 (14.1%) 7月: 2,021件 (15.9%) ・7月が僅かではあるが多い傾向にある。	平成25年中 (7月まで)

平成25年2月20日

自動車・オートバイ盗難状況調査 【平成25年広島県】

公益社団法人 日本防犯設備協会
自動車・オートバイ委員会

目次

- 広島県警察 犯罪発生マップによるデータ
- 盗難データ分析(自動車・オートバイ)【平成25年広島県】
 - ①.自動車／オートバイ盗難 比率
 - ②.盗難発生月 比率
 - ③.発生時刻 比率
 - ④.発生日 比率
 - ⑤.発生曜日 比率
 - ⑥.発生署別 比率
 - ⑦.発生場所形態 比率
 - ⑧.発生地域 比率(マップ)

■広島県警察 犯罪発生マップによるデータ

<http://www2.wagamachi-guide.com/hpp-map/pc/top.asp>

広島県警察 犯罪発生マップ | トップページ

広島県警察 犯罪発生マップ

Hiroshima Prefectural Police

住所・施設から探す 情報一覧から探す

▶ 場所を選択

▶ 情報種別を選択

不審者情報 犯罪情報

侵入強盗 侵入窃盗 自動車盗 オートバイ盗 自転車盗

全て選択 全てクリア

▶ 発生日時を選択

▶ 最新情報マップ こちらをクリック

基本的な使い方 必ずお読みください

アクセシビリティ・センター ZoomSightは[こちら](#)

検索条件

場所: 広島県全域
情報種別: 自動車盗, オートバイ盗
発生日時: 2013/06/30から 2013/07/30まで

条件クリア

情報一覧表

文字の大きさ 大 中 小 県全域地図

検索条件

該当件数 57件 (1~10件目を表示しています)

一覧を地図表示する

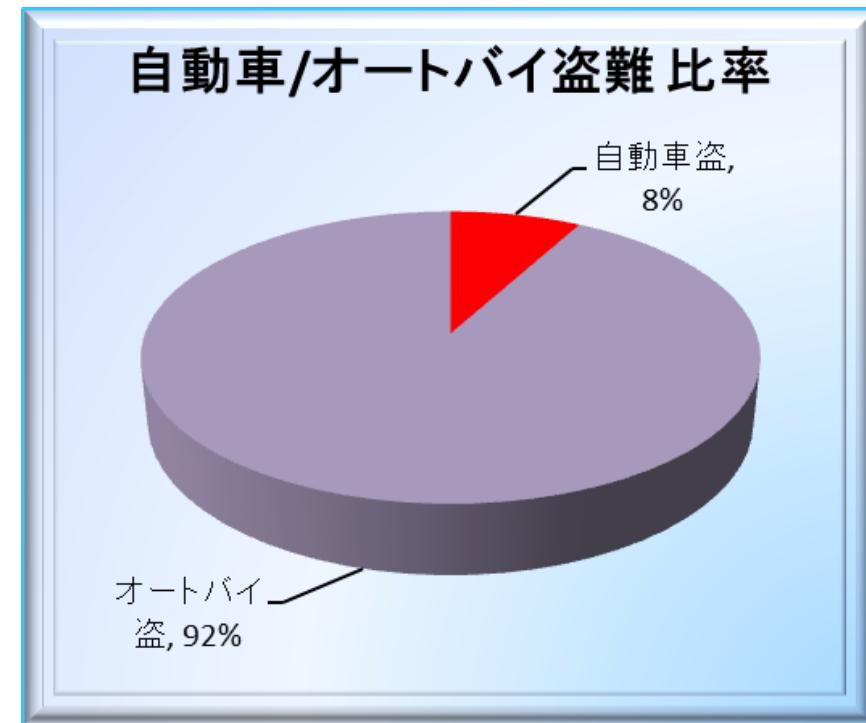
管理番号	住所	発生日時	種別	発生署	地図
594667 New	安芸郡府中町緑ヶ丘	2013年7月25日(木)17時ころ	オートバイ盗	広島東警察署	地図
594751 New	広島市安佐北区あさひが丘5丁目	2013年7月23日(火)17時ころ	オートバイ盗	安佐北警察署	地図
594750 New	東広島市西条町寺家	2013年7月23日(火)16時ころ	オートバイ盗	東広島警察署	地図
594675 New	福山市西深津町2丁目	2013年7月22日(月)10時ころ	オートバイ盗	福山東警察署	地図
594674 New	呉市宝町	2013年7月22日(月)08時ころ	オートバイ盗	呉警察署	地図
594603 New	広島市南区大州4丁目	2013年7月21日(日)23時ころ	オートバイ盗	広島東警察署	地図
594665 New	東広島市黒瀬町上保田	2013年7月21日(日)20時ころ	オートバイ盗	東広島警察署	地図
594666 New	福山市曙町3丁目	2013年7月21日(日)18時ころ	オートバイ盗	福山東警察署	地図
594676 New	広島市西区己斐本町2丁目	2013年7月21日(日)14時ころ	オートバイ盗	広島西警察署	地図
594664 New	広島市中区大手町1丁目	2013年7月21日(日)13時ころ	オートバイ盗	広島中央警察署	地図

次へ

■ 盗難データ分析(自動車・オートバイ)【平成25年広島県】

①.自動車盗／オートバイ盗 比率

自動車盗／ オートバイ盗	件数	比率
自動車盗	65	8%
オートバイ盗	746	92%
合計	811	100%

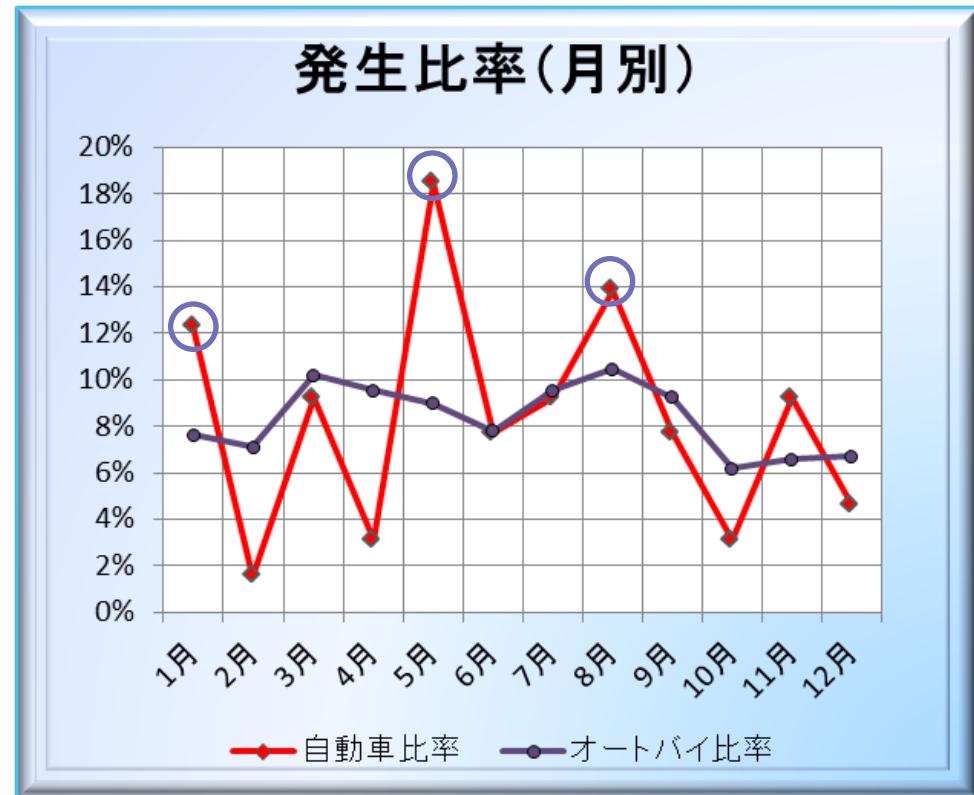


自動車・オートバイの盗難比率は、9割以上がオートバイとなっている。

盗難データ分析(自動車・オートバイ) 平成25年広島県】

②. 盗難発生月 比率

発生月	自動車		オートバイ	
	件数	比率	件数	比率
1月	8	12%	57	8%
2月	1	2%	53	7%
3月	6	9%	76	10%
4月	2	3%	71	10%
5月	12	18%	67	9%
6月	5	8%	58	8%
7月	6	9%	71	10%
8月	9	14%	78	10%
9月	5	8%	69	9%
10月	2	3%	46	6%
11月	6	9%	49	7%
12月	3	5%	50	7%
合計	65	100%	745	100%



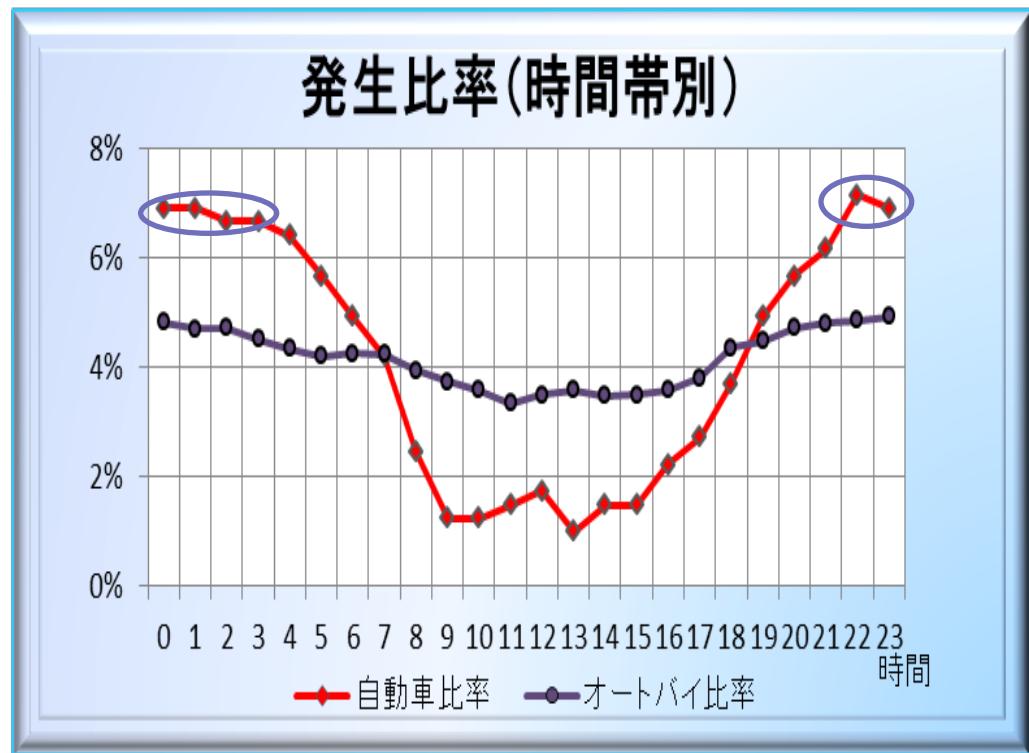
自動車では、1月、5月、8月の盗難発生比率が高くなっている。

オートバイでは、春休み、夏休み期間中の3月、8月の発生比率が僅かではあるが高い傾向となっている。

盗難データ分析(自動車・オートバイ) 【平成25年広島県】

③.発生時刻 比率

発生時刻	自動車		オートバイ	
	件数	比率	件数	比率
0時	28	7%	268	5%
1時	28	7%	262	5%
2時	27	7%	263	5%
3時	27	7%	251	5%
4時	26	6%	241	4%
5時	23	6%	234	4%
6時	20	5%	237	4%
7時	17	4%	236	4%
8時	10	2%	219	4%
9時	5	1%	208	4%
10時	5	1%	199	4%
11時	6	1%	186	3%
12時	7	2%	194	3%
13時	4	1%	199	4%
14時	6	1%	193	3%
15時	6	1%	194	3%
16時	9	2%	199	4%
17時	11	3%	212	4%
18時	15	4%	242	4%
19時	20	5%	249	4%
20時	23	6%	263	5%
21時	25	6%	267	5%
22時	29	7%	270	5%
23時	28	7%	274	5%
合計	405	100%	5,560	100%



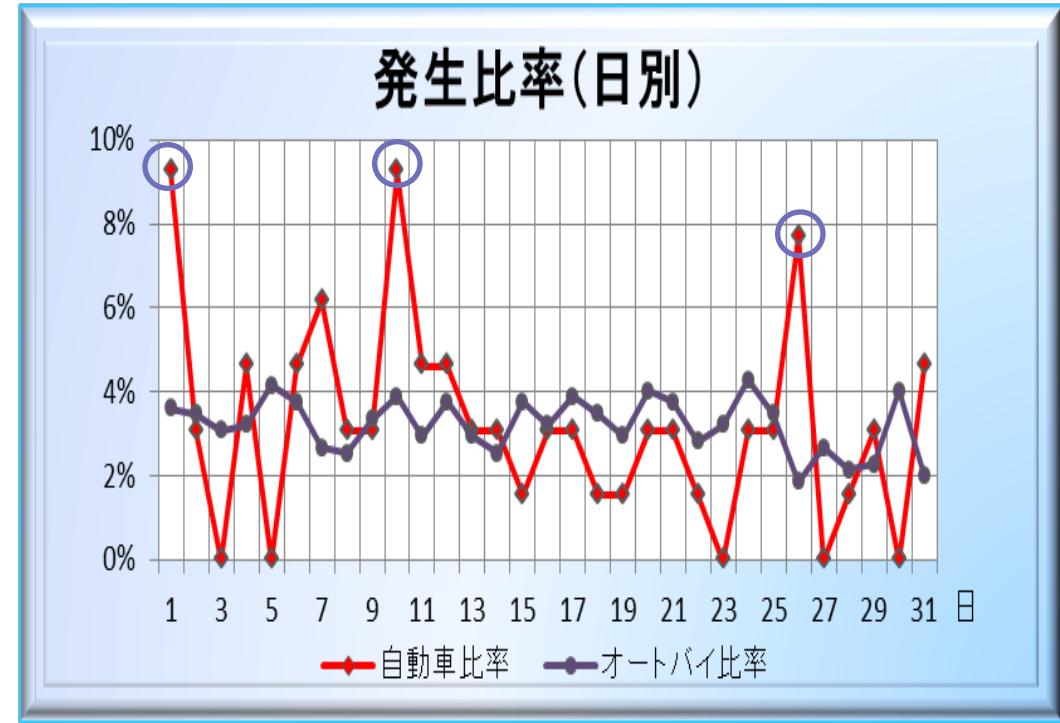
盗難発生時刻は、22:00から明け方3:00辺りの深夜時間帯の比率が高い傾向となっている。

自動車は昼間の発生率が極端に低い傾向にあるが、オートバイは昼夜の差が少なく、昼間でも比較的に多く発生している傾向となっている。

盗難データ分析(自動車・オートバイ) 【平成25年広島県】

④. 発生日 比率

発生日	自動車		オートバイ	
	件数	比率	件数	比率
1日	6	9%	27	4%
2日	2	3%	26	3%
3日	0	0%	23	3%
4日	3	5%	24	3%
5日	0	0%	31	4%
6日	3	5%	28	4%
7日	4	6%	20	3%
8日	2	3%	19	3%
9日	2	3%	25	3%
10日	6	9%	29	4%
11日	3	5%	22	3%
12日	3	5%	28	4%
13日	2	3%	22	3%
14日	2	3%	19	3%
15日	1	2%	28	4%
16日	2	3%	24	3%
17日	2	3%	29	4%
18日	1	2%	26	3%
19日	1	2%	22	3%
20日	2	3%	30	4%
21日	2	3%	28	4%
22日	1	2%	21	3%
23日	0	0%	24	3%
24日	2	3%	32	4%
25日	2	3%	26	3%
26日	5	8%	14	2%
27日	0	0%	20	3%
28日	1	2%	16	2%
29日	2	3%	17	2%
30日	0	0%	30	4%
31日	3	5%	15	2%
合計	65	100%	745	100%

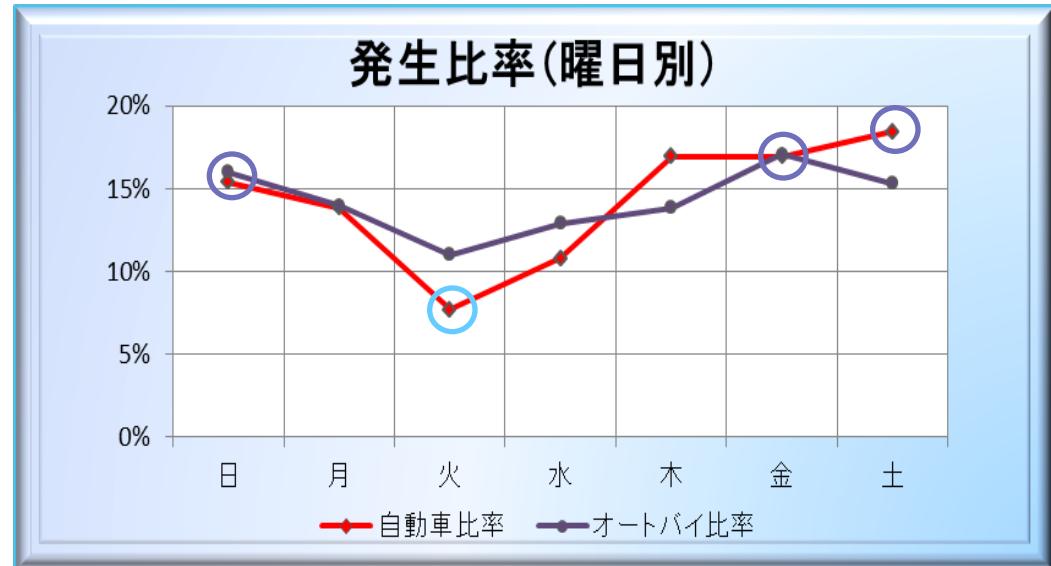


自動車の盗難発生日については、1日、10日、26日が高い傾向がみられる。
オートバイでは、それほど日別の傾向はみられない。

盗難データ分析(自動車・オートバイ) 【平成25年広島県】

⑤.発生曜日 比率

発生曜日	自動車		オートバイ	
	件数	比率	件数	比率
日曜日	10	15%	119	16%
月曜日	9	14%	104	14%
火曜日	5	8%	82	11%
水曜日	7	11%	96	13%
木曜日	11	17%	103	14%
金曜日	11	17%	127	17%
土曜日	12	18%	114	15%
合計	65	100%	745	100%

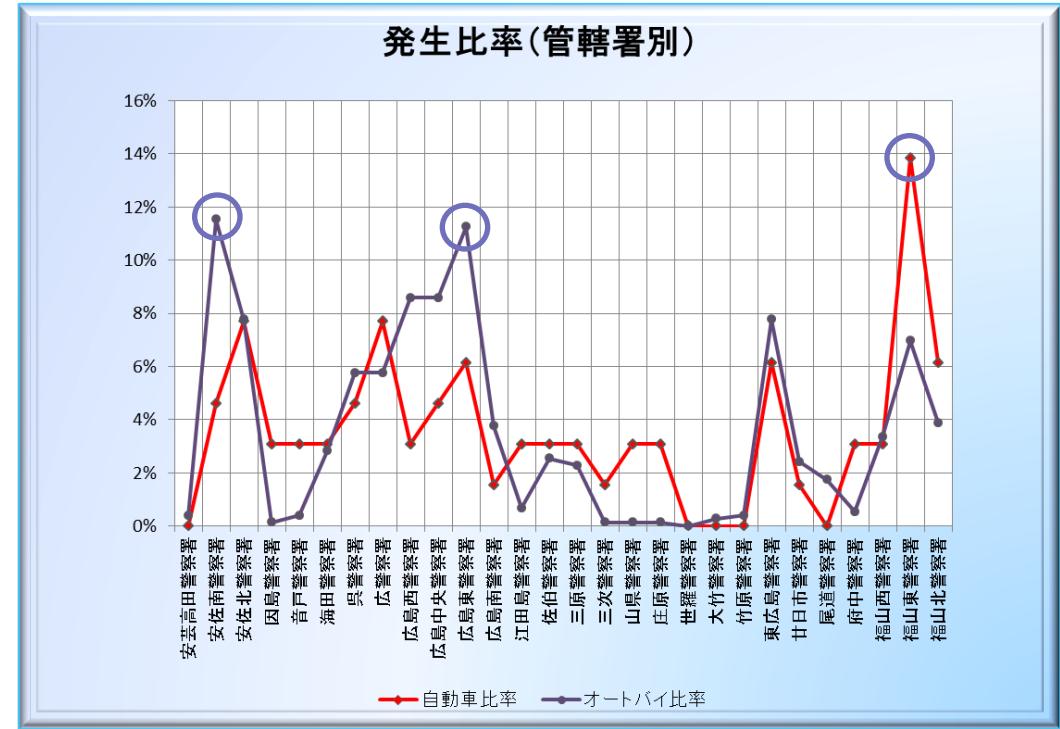


自動車、オートバイともに、火曜日が低く、金、土、日曜日が高い傾向がみられる。

盗難データ分析(自動車・オートバイ) 【平成25年広島県】

⑥.発生署別 比率

発生署	自動車		オートバイ	
	件数	比率	件数	比率
安芸高田警察署	0	0%	3	0%
安佐南警察署	3	5%	86	12%
安佐北警察署	5	8%	58	8%
因島警察署	2	3%	1	0%
音戸警察署	2	3%	3	0%
海田警察署	2	3%	21	3%
呉警察署	3	5%	43	6%
広警察署	5	8%	43	6%
広島西警察署	2	3%	64	9%
広島中央警察署	3	5%	64	9%
広島東警察署	4	6%	84	11%
広島南警察署	1	2%	28	4%
江田島警察署	2	3%	5	1%
佐伯警察署	2	3%	19	3%
三原警察署	2	3%	17	2%
三次警察署	1	2%	1	0%
山県警察署	2	3%	1	0%
庄原警察署	2	3%	1	0%
世羅警察署	0	0%	0	0%
大竹警察署	0	0%	2	0%
竹原警察署	0	0%	3	0%
東広島警察署	4	6%	58	8%
廿日市警察署	1	2%	18	2%
尾道警察署	0	0%	13	2%
府中警察署	2	3%	4	1%
福山西警察署	2	3%	25	3%
福山東警察署	9	14%	52	7%
福山北警察署	4	6%	29	4%
合計	65	100%	746	100%



自動車では、福山東警察署が14%と高い比率となっている。
オートバイでは、安佐南警察署12%、広島東警察署が11%と高い傾向になっている。
全体的に、繁華街を管轄している警察署に高い傾向がみられる。

盗難データ分析(自動車・オートバイ) 【平成25年広島県】

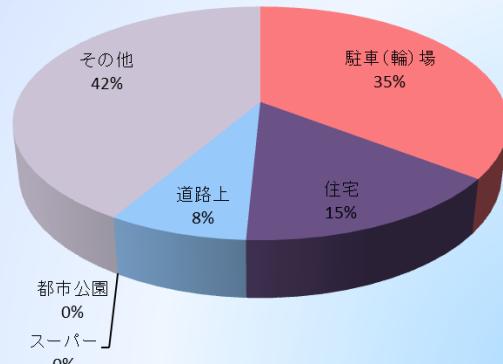
⑦.発生場所 形態別 比率

発生場所 形態	自動車		オートバイ	
	件数	比率	件数	比率
駐車(輪)場	23	35%	471	63%
住宅	10	15%	128	17%
道路上	5	8%	114	15%
スーパー	0	0%	6	1%
都市公園	0	0%	1	0%
その他	27	42%	26	3%
合計	65	100%	746	100%

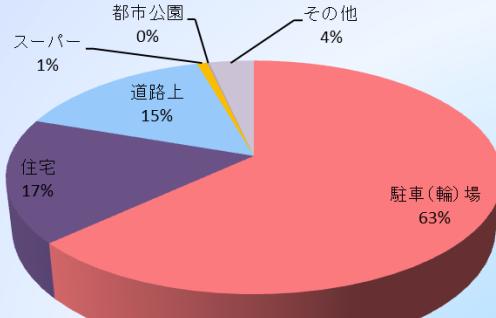
オートバイ、自動車共に駐車(輪)場での盗難発生が多い。オートバイは、自宅ではなく出先で盗まれている。

住宅、路上の比率では、自動車／オートバイで大きな差はみられない。

発生場所の形態_比率(自動車)



発生場所の形態_比率(オートバイ)



盗難データ分析(自動車・オートバイ) 【平成25年広島県】

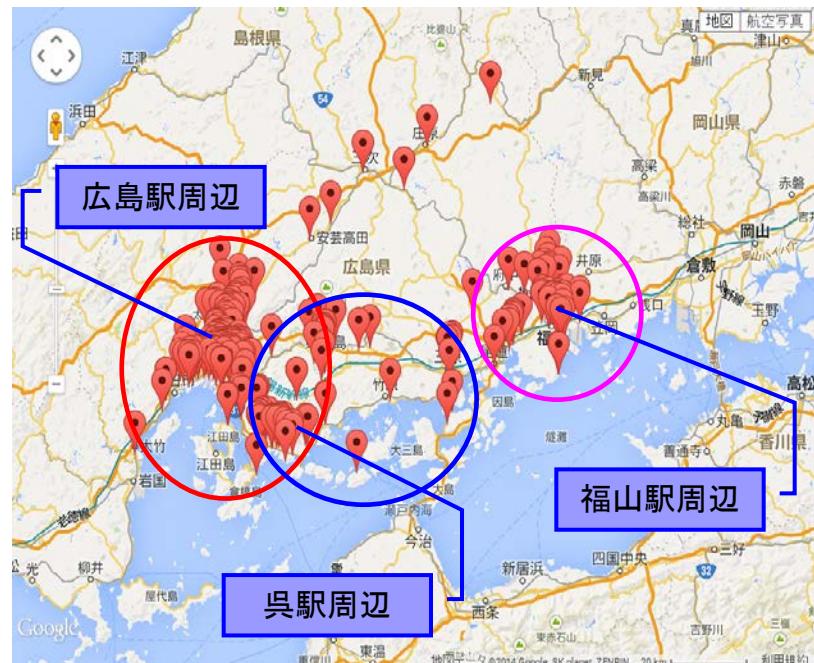
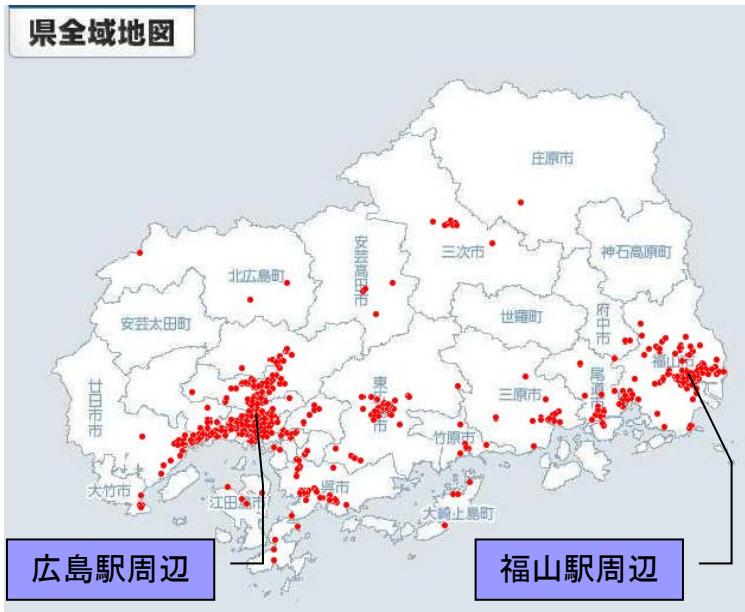
⑧. 発生地域 比率(マップ)

自動車・オートバイ盗難を抽出すると

不審者、犯罪の発生場所 (自動車盗、オートバイ盗を含む)

自動車盗、オートバイ盗の発生場所

県全域地図



自動車オートバイを物色しやすいよう台数が多い繁華街を中心に発生件数が多い傾向にある。逆に閑散地は、台数が少なく、また普段見かけない人がいると目立つために犯行におよばない傾向があるため発生件数が少ないと思われる。

盗難データ分析(自動車・オートバイ) 【平成25年広島県】

